

特色と活力ある学校づくり

白男川小学校

白男川小学校は、町の中心部から西方5kmに位置し、米やイチゴ、ニラの栽培が盛んな田園地帯にある。児童数18名、3学級の小規模校です。

今年度は「一歩一歩前進する白男川小」を目標に、人数は少なくても子どもたち一人ひとりの良さを見いだし、21世紀を生き抜く『白男川っ子』の育成を目指して、様々な教育活動に取り組んできました。

【白男川小の日課】

白男川小の1日は、始業前の駆け足に始まります。8時から10分間、陽差しのきつい夏の日も紫尾おろしが吹く寒い日も全校児童、全職員が自分のペイスで校庭を走っています。ランニングを終えたら、毎日10分間の「読書タイム」です。担任の先生と一緒に静かに読みます。また、人前でもはきはきと自分の考えや思いを伝えられるように、全校朝会での1分間スピーチや給食時間の朗読などの活動を続けています。さらに毎週金曜日を「英語を使うデー」として位置づけ、全校あげて「グッドモーニング」と元気な声であいさつを実践しています。



熱心に朗読する児童

【親子で楽しく】

今年は親子料理教室も開催し、講師の方に「ニラ入りハンバーグ」や「タケノコを使ったみそ汁」など地元の野菜を使った献立を教えていただきました。子どもたちはお父さんやお母さん方と一緒に慣れない包丁さばきに悪戦苦闘しながらも、一生懸命がんばっておいしい昼ご飯を作りました。

【「水辺の楽校」でカヌー初体験】

2学期が始まったばかりの9月2日、校区を流れる泊野川で自然観察の体験活動をしました。網を使って水草の奥



初めて見る昆虫に興味津々

に隠れている水生昆虫を採取して観察をしたり、川の大切な役割などについて専門家の先生のお話を聞いたりしました。また、カヌーに挑戦して、川で遊ぶ楽しさをいっそう実感しました。自分たちの住む白男川の自然のすばらしさを再発見できた貴重な体験でした。平成16年度も締めくくりの時期を迎えましたが、18名の子どもたちは、保護者や地域の方々、先生方に支えられて、今日も自分の目標に向かって、精一杯小さな一歩を築いているところで

春の全国火災予防運動

「火は消した？

いつも心に

きいてみて」

(全国統一防火標語)

3月1日から7日まで、春の全国火災予防運動が実施されます。

昨年1年間、町内で発生した火災は17件で、損害額は6,138千円でした。最も多い火災原因はたき火によるものでした。

これから空気が乾燥し火災が発生しやすい時季を迎えます。一度火災が発生すると、大火につながる危険性があります。大切な生命や財産が、一瞬にして失われますので、火の取り扱いには十分ご注意ください。また隣近所で協力して、高齢者や身体の不自由な人を火災から守りましょう。

○火の用心 7つのポイント

- ①家のまわりに燃えやすいものを置かない
- ②寝たばこやたばこの投げ捨てをしない
- ③天ぷらを揚げるときは、その場を離れない
- ④風の強いときは、たき火をしない
- ⑤子供には、マッチやライターで遊ばせない
- ⑥電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない
- ⑦ストーブには、燃えやすいものを近づけない